

受講番号 18018 学校名 高知丸の内高等学校 氏名 清本 素子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生普通科 生徒数 12名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Power On English

クラスの様子・特徴

単位制普通科10クラスから集まってきた生徒で構成された12人のクラスである。少人数であり、英語の授業だけしか会わないという生徒もいるので、音読活動も消極的である。英語に対して意欲的な生徒も少ない。

問題の確定

反復練習を行い、語彙力をあげる。フレーズリーディングを取り入れ、英文を前から理解する習慣をつけさせる。

予備調査

A 授業の観察

ペアワークなどは積極的に取り組むが、リピート練習になると声が出ない生徒がほとんどである。家庭学習の習慣も全くついてない。英語を理解したい、英語力をつけたいと前向きな姿勢の生徒は数人である。

B 生徒による授業評価

生徒に自信をつけさせるために作成しているプリントであるが、わかりやすいという意見も多かったが、プリントの量が多くて煩雑であるとの意見も数名あった。工夫が必要だと感じた。

C 学力データ

年度当初に行った教科別診断テストと中間テスト、期末テストを比較してみると授業中真面目に取り組んでいる生徒は、向上していることがわかる。

リサーチ・クエスチョン

教科書の英文をフレーズで理解し、意味を考えながら大きな声でリピートできるようにするにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

単語、熟語や重要な語群の反復練習をし、確認テストを通して本文の内容を理解した後でフレーズリーディングを行えば、語順の定着が図れ、フレーズ読解につながるだろう。

実践1

単語、熟語、重要語句を集約したプリントを作成し、意味を理解させる。そして意味を考えながら、繰り返しリピートを行う。その後ペアで、お互いの読み(発音)と意味の理解ができているか、確認テストを行う。重要な語句等を音として頭に入れ、意味を理解させる。そして何を聞き取ってほしいかの示唆を与えたQ&Aのプリントを参考にしながら、ヒアリングテストを行う。本文の内容を耳で聞き、理解させるのが目的である。

検証1

重要な語句等を何度もリピートし、意味を理解していると、英文を見なくても、大まかな意味は理解できている。これは英語に対して苦手意識のあった生徒の自信につながったようだ。しかし、意味をとること、音読に重点をおいたので書くことがおろそかになり、定期テストでスペルミスが目立った。後半は音読の時間を削減せざるをえなかった。

仮説2

フレーズ訳を徹底させ、フレーズを意識した音読練習を繰り返すことで、フレーズで意味をとろうとする態度が定着するだろう。

実践2

フレーズで区切り、意味を確認させる。フレーズごとに、日本語、英語リピートを繰り返し、フレーズを意識したリピート練習を徹底的に行う。ペアで発音、フレーズ訳の確認を行う。意味が頭に入った後、フレーズごと意味を意識しながらリピート練習を行う。そしてペアでフレーズごとの英日通訳練習を行い、確認テストをする。

検証2

後期に入り、単語の意味を取る前に英文に目を通し、大まかな意味を取る活動を取り入れた。一部の生徒ではあるが、フレーズリーディングを意識し、大まかな意味も理解できていた。フレーズリーディングが浸透しつつあるようだ。少人数のクラスなので一斉音読ではなく、一人ひとりフレーズを次々読む活動を取り入れた。多少時間はかかるが、それぞれの発音を確認できたという点では良かった。

仮説3

ペアでの音読確認テストや、吹き込みテストを行い、自分自身の読みを確認する場を設ければ、大きな声でリピートするようになるだろう。

実践3

重要構文や重要語句の入った文を選び、重点的に学習させる。そしてフレーズごとに区切りポーズをおいたテープを作成し、ポーズで日本語を言う練習を行ったり、英文のリピート練習をさせる。熟語、重要語句を意識させるために穴埋め形式にした文をリピートさせる。同時に吹き込みテストを行い自分の読みを確認させる。

検証3

穴埋め形式でリピートした英文や吹き込みを行った英文は、定着が見られた。しかし、吹き込みをした英文は、評価をしただけに終わってしまった。生徒がもう一度聞き返し、発音やイントネーション改善等に役立てる工夫が必要であった。また、ペア活動を頻繁に取り入れたことによりお互いの交流がはかれ、パートナーとの間に協力意識が芽生えた。

研究の成果

4月には長文読解に苦手意識を持つ生徒が多かった。しかし、重要語句を理解した上でCDを聞くことによって、ある程度意味が理解できたことで達成感が得られたようだ。苦手意識を持っていた生徒に多少なりとも変化があったことは成果である。また、重要な文に絞り込み、徹底的にリピートしたり、レコーディングした英文は、定着がみられた。ペア活動を頻繁に取り入れたことにより、生徒間の交流がはかれた。また、ペアでの英日通訳練習を通して、フレーズを意識して読むことが、ある程度定着したことも成果である。

今後の授業改善の課題

内容理解や音読ということに重点をおいたので、聞いて意味がわかって書けないという傾向があった。音読筆写を取り入れたら工夫が必要であると感じた。また、学力の定着には家庭学習が必須であると思う。授業時間に限りがあるので、書くことを家庭学習で取り入れていきたい。音読の取り組みについては、やはり全体での声がかない。もう少し活気のある授業になるよう、ゲーム的な要素も取り入れていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-873-4291

電子メール

motoko_kiyomoto@kt4.kochinet.ed.jp